



長野県下伊那郡竜丘村番地
編輯長 高島和男
印刷人 竜丘青年會
代表者 林保

時局再認識

日支事變も此處に一句を迎へたる今日、今や秋冷を感じ農民等しく收穫に、時付けに寸暇寸時を惜しみて大地の上に希望を抱きて健闘する霜月となり、寒氣も刻々迫り来る折はなつた。

過日時局の重大性に鑑み、首相近衛公の名に於て國民精神總動員の名が津々浦々に當村各戸に洩れなく配布され國民全体等しくその緊張の度を加へ認識を一層深めた。

國家總動員、理論より實際運動に各工場に於ける労働時間の延長に依る國防献金、男女青年會婦人會に於ける古雑誌新聞紙募集、街頭進出等に於ける獻金を始め、出征家族に對しては商家に於て集金に農家に在りては稲刈り、麥の時付桑園の耕作に、村民擧げて其の重要性を自覺して男女青年會の如き一少微力團體に委せ全民一致奉仕活動を續け戦線にある勇士に心残り無き迄に安心を與へる事は此れ戦後國民の義務であり美點である

然るに要旨何ヶ條かの内特に我々青年として第一に感じ目を止めさせる事項は節酒、節煙、短髮の三項目である。節酒に於ては今更云ふ迄もないが省みるに此處數年來各村經濟更生計畫中に於て發表し第一目標として實行運動に入り乍らも失敗(？)に歸して居る事實あり節煙に於ては各個人人的なる意志大いに明か

ならざるも節酒と同様否以上に實行は困難であらう。短髮は職業的に社会的に於て、則ち交際上相方に美感を與へる點からして徒らに排撃する事は出来難きも自奮の如何に依つては三項目中一番實行し易き問題ではなからうか國民精神總動員中に於てはこれ一細部分の問題乍ら各個人的の自奮に於て決する項目に於てすら非常なる困難さ方法研究を要する。

軍海 志願兵 について

一、海軍志願兵の使命
我が海軍は志願兵の採用に重きを置かねばならぬか、それはいろいろの理由もあるが分り易く簡単に云へば次の通りである。

一、日本獨創の價れたる露船兵器機關の活用は優れたる日本青年の手に依らねばならぬ。
二、最新知識を集めたる海軍を予解するには長期の服役を要す。

三、優秀有爲の軍人の養生
四、特務士官、准士官としての活躍期待。
戰艦陸奥、長門も巡洋艦高雄、那智も乃至驅逐艦、潜水艦、航空機も其の威力の發揮には志願兵の力に依つて多量に海軍活躍の舞臺は太平洋に其の存在は半戦時時に於ける帝

者が一に對しは眞に思議さざるの外はない。苟も海軍志願兵を志す程の熱意ある海軍男子は此の主要兵種たる水兵を進んで志願し少くも第一志望には年齢の許さる、限り總てのものが志願すべきではあるまいか。

三、志願手續及徵募検査
志願兵の募集、志がん書の提出期日、徵募検査の日割等は毎年各府縣毎に一般に告示される。志がん兵は右募集があつたら親権者の同意を得た上で志がん書を作り期日に遅れぬ様に市區町村長を経て地方長官に出がんとすべし。

志がん書の様式、検査期日場所等詳細は市區役所又は町村役場に就て問ひ合せればよい。志がん者の年齢は各兵種により定められ、採用の年即ち昭和十三年十二月一日現在で計算するもので詳細は左の通りである。

一、水兵(掌電信兵を除く)
航空兵(乙種飛行豫科及偵察練習生を除く)
機關兵 看護兵を主計兵
自大正六年十二月三日生
至大正二十年十二月二日生
二、水兵(掌電信兵)
航空兵(偵察練習生)
十五年以上十九年未満
三、航空兵(乙種飛行豫科練習生)
十五年以上十八年未満
四、軍樂兵
十六年以上二十年未満
四、志がし者心得
一、決心 父兄や先輩によく相談して自分の年齢、學力、身体から考へて如何なる兵種に適するかを決め、若し希望の兵種が二つ以上あつたら第一志望何々、第二志望何々とする。
二、出がん 市區町村役場に

がんの旨を申告して定められた期日迄にがん書を差出す事。豫備検査や豫備教育行はれる場合には進んで之に應ずること。
三、準備 一、學科は高等小學卒業程度の數學と讀史を反覆勉強して置くこと。
二、身體の鍛錬に心懸け又山い所はないかよく前の規表に照して見て置く事。出来れば學校醫等の検査を受け軽い疾病はすぐ治して置く事。
五、品行を慎み精神の修養に努めあらゆる誘惑に打ち

事
一、検査前日には必ず入浴して身體を清め且耳鼻の内部をよく掃除して置く事。
四、検査當日の携帶品
イ、青年學校手帳(青年訓練手帳)
ロ、尋常小學四年以上の通信簿全部(通信簿なき時は學業證明書)及各種褒賞等
ハ、鉛筆 ナイフ 消ゴム
ニ、辨當及脱いだ衣服所持品を包む風呂敷
五、検査開始時刻に必ず遅れぬこと。

テフナドノカミ、タムケノカミ等の神名があり伊那郡那岐神の御杖を道に立て、「こゝより汚れし者來るべからず」を仰せられたによりカミミナリ道路を司り、道案内のみ様である。

▲稻荷じん社
須佐之男命の御子にウカノミタマノカミあり、一切の食物を司り給ふかみにて、稻荷様の名で廣く祭られてある。
平田篤胤先生はトヨウケヒメオホゲツヒメ等皆同一のかみならんとしてある。

▲村社三祭じん
一、駄科諏訪社
タケメカトノミコト
大國主かみの御子なり、タケミカヅチかみが高天の原の御使ひに來り、讓國の事を議すやこのかみ怒りて力眼をいさみ敗れて信濃須羽海に走り、天じんの命に服し此の地に止り住み給ふに因り諏訪社として全國に祭らる。

▲村社三祭じん
二、長野原金山社
カナヤマヒコノミコト、ヒコはヒコミと呼ぶべく古事記に出でゐる。じん名考によるに金氣又は金山を洋め守り捨ふかみとあるが、伊弉諾美かみが火がみを御生みの時に吐き苦しみになつた時に生れまししたかみ故に、干菜ひ病枯れるの意もありさかみを齋典には出でゐる。

▲道祖神
サヘノカミ、フナトノカミ、クナトノサヘノカミ、ツキタ

三、時又八王寺社
タケハヤササノミコト、スサノヲノミコトの事である。元來このかみは官國幣大社に氷川 八坂 カナサナ 熊野 日御崎 須佐の各社に祭り申して、八王子は天照大じん、須佐之男命が御誓ひの時に生れました五男三女がみをお祭りするのが多い。依りて考へるに八王子社も往古は八王子權現であつたのが、じん佛混合禁止の際に現在の様な御祭じん社名になつたものと思はれるも、十社權現も種々の關係あるものも感じられる。

郷土史神社釋義

▲氏 神
古代に於ける社會組織の單位は特定の地方に血族を同一にする氏族の共同生活の集團であり、この全的統合が皇室を中心とする大家族主義の團體であつた。

▲大年神ニ歳徳神
大年神は須佐之男命の御子で其の御子を御年神と申す。共に稻のカミ様であるがこれに名が似てゐるところから間違へてならぬのはトシトクジン(歳徳神)である。

▲大年神ニ歳徳神
歳徳神は支那より傳來の陰陽道の祭神で其の年の大將軍のゐる方を塞(フサガリ)と稱し、之を反對の方向を明又は恵方と稱し歳徳神が司る云ふのである。

▲庚 申
これも前と同様に支那傳來の陰陽道から出たもので神道からは全くの問題多である。

▲忘 神(コウジン)
私は於に之については詳細に書いて竜丘時報にのせたことあるから再生はしないことにする。



▲大年神ニ歳徳神
サヘノカミ、フナトノカミ、クナトノサヘノカミ、ツキタ

滿洲國

松島自由移民團管見記

小林 善

前月號に於て私等の旅行の途筋の一端を書いた。それに依つて滿洲の距離がざつと御承知願へた事と思ふ。

吉林市附近は内地で眺めた景色よりも目界少しく廣いだけ濁つてはゐる。山も年中も有り、木も草も之は珍らしいと思ふ様なものは少い。作物も落花生、里芋、薩摩芋位以外はなんでも出来る。

冬零下何十度まで下るので一毛作より出来ないが、春から夏の日、照る時間が長いので作物がよく育つ。従つて草も生え方が早く、刈つて何を作つたのか分らない様になる。此の點等も内地と何等變らぬ。

自給自足が出来て人生を樂しむ方が相當高値な作物は作るが、絶へず資本主義經濟にこき廻されて苦しむより好いと思ふ人は滿洲へ行く可きだ。北米も南米も閉じて居るのに滿洲國は手を廣げて來るのを待つて居る。人には増して糧糧品は國內で得られ、譯山の兵隊を養へるからソビエットの職備に對抗するのに都合がよい。滿洲國の標榜する「五族協和王道榮土」の五族は漢人蒙古人鮮人日本人である。此の内指導的立場を司るのは當然大和民族である。

「農村の開發」それは大地に足をつけた農民を多く移民して、滿洲國を育てなければならぬ。皇國青年諸君率先してこの大事業の爲め奮起を御願ひしたい。

滿人は畑作のみで水田は絶對やらない。今日の水田開發は鮮人が始めたのである。移民

團で小作人と稱し又其使用人をして居る鮮人は、實は水田の指導者なので少々虫の好い名の付方である。滿人の農業は平地は殆んど開墾し盡され山も傾斜の度が低いので、隨分高い處まで開墾されて大豆粟等作つてある。山の開墾地は無肥料で作れるうち作つて收獲が減る様にならば捨て置いて、又外の方面を開墾する云ふやり方で、最近平地の畑が水田に變換する爲め、高値に畑地を賣却して滿人は山へ行くやうである。耕作には牛か馬を使ふのであるが馬の方が多く様だ。家畜を愛し之を頭馳するのは先天的上手な民族らしく、下伊那地方の一番小型位の体の白色が多い。二三頭に鋤を付けて長い鞭を持ち、巧に大豆や粟の耕作をして居るのは實にうまいものだ。今後指導的立場に立つ大和民族も此の仕事は容易に出来るかどうか、草掻は決して手を掛らずに株の基まで道具で上手に掻いて行き、早朝から炎天の晝中も家畜と共に働く勤勉な農人である。

移民地部落の滿人農家も大小何戸も見たが、強い大陸風と匪賊の襲撃を防ぐ爲め何れも屋敷に六尺位の土塀の圍みか木の柵を廻らして居る。一棟の家に何組かの夫婦が土間を隔て、カーテンで仕切られた一部屋一部屋に一組宛に住んで居る。老婦人には纏足した不自由な足を投げ出して、オンドルの上にアンペラを敷いた床で縫物等してゐるが若い者は纏足は見られぬ。

地主階級の家になるさ嫁入當時の朱塗の長持や、美しい蒲

圖が綺麗に疊んで積であるのが目に付く。一番奥の土間の正面に極彩色の美しい額を何枚も並べて掛け、最下に時計を置き兩側に綺麗な花瓶が花なして、對か二對飾つてあるのは其の家の財産に依つて上下がある云ふだけで、同一な形式だ。此の部屋が内地の御座敷なので私共が行く三天真らん慢嬉んで迎え、必ず茶と巻煙草を出して登す。辭する時は門口まで一家出て見送る誠心が心地が好い。言葉も小學校は日本語が正課になつて居る云ふから、小供には少しは話せる者も有る。三四年も経たなら普通の話しは出来る若人が譯山出來ると思ふ。

部落には警務團と云つて其の部落の匪賊防備の團體があるが、大小に依り人類は一定せぬが、十七八才より四十才過ぎと思へる男子が一定の家に共同生活して武器を蓄へ有時の守りに備へて居る。一人月給七八圓とか、生活低度が高いので之で結構貯金が出来るとうである。然し事と値によれば銃は匪賊に賣つて逃る者が出來るも知れんさうだから油断はならぬ。

十六日一日休養して十七日愈々移民團の視察に乗りか、つた。最先に手近い白山子から大吉林市都市計劃の内に入れられてゐるが二里ある。郵便は配達が無いので、吉林の領事館まで取りに行つて居る。組合長は伊賀良村の宮崎千博氏で大下條村金田博、伊賀良村遠藤一夫、岡岡庭友一、同久保田只雄、同藤澤達郎、今牧芳平(吉林にて本部の事務)市田村久保田芳雄、同北原信雄、上飯田町菅沼達男、諸氏十名、三月十六日入植後新に水路を開鑿する二線、甲は延長一里二十丁、乙は延長十五丁、四月九日より五月廿五日

まで延人員四千八、この費用七百圓を仕拂つて居る。溫徳川本流を堰切中三十間あり、伊賀良井の殿岡邊の位もある水を引て灌漑して居る。言葉もまだ通ぜず物凄いな様な鮮人もまだ通ぜずの難事業、其の當時を追想しつ、語る宮崎氏の話し、實に敬服すべきものがある。水路成功後五月卅日より六月十六日まで延人員千六百工を要して、水田面積百一十丁歩、内三分の一は共同小作に付し残り耕作して居る。外に七丁四反の畑に大豆及春秋の野菜を作つて居る土地は平均一丁歩、金二百十二圓、資金は滿拓會社より借入れ二ヶ年据置廿五年賦である。團の生活は滿人家屋でオンドルにアンペラを敷き、座敷で寢室で居間兼用交暑の下に一日働いて歸れば第一の慰安所である。部屋も部屋との間の土間は内地の勝手庭であり、食堂である。明りはランプを使つて居る。電灯は當分點灯出來ぬと思ふ。團員は一日交代に炊事當番に當り、其の日は農場へは出ずに暇があれば洗濯なり手紙を書くなり自由である。飲用水は淺い從非戸を鑿して居るが内地の水に比するに酸等以下だ。一日の生活費は四ヶ所も大差なく一人當り廿五六錢要する。政府拂下米等は見たくても無いので、皆麥の入れない白米飯に今は自給の野菜を食べて居る。江密峰の伊原君の調査に依れば物價は

米一升 廿六錢 小豆 十三錢 粟 廿二錢 砂糖百六十匁 十六錢 鹽同 八錢 醬油 日本品 六十七錢 味噌同一貫匁 七十錢

水田の耕作は小作人と稱する鮮人が人夫二人を連れて都合四人で、七丁四反歩を耕作する事なるので、此の、金

百五十圓位を要する。鋤で堀起した處へ水をつけ、筏でかきならせは水田が出来たので種を水浸したのを、反當約五升ペラ蒔にするので、此の時技術の時期に依り種が一寸始めでは出來兼ねる事なうである。畦畔は相當譯山ありし、全部塗るので廣い耕地が故に分えらる仕事だ。廣さは一番長い處で千八百米、巾が九百米、一寸伊那では比較する土地が無い。

川には雜魚が譯山居るがあんまり甘くない。一泊して移民生活も味ひ十八日は奉吉線を十四里余りの双河鎮視察驛前に宿舎があり、赤レンガの日本〇〇〇もある、戸數千戸の町だ。外廓には支余の丸太を細を廻し匪賊に備へ、出入の門は番人が居り夜は戸を閉すのである。組合長は上久堅の後藤保一氏、外に會地村原智保三、上久堅村杉山忠三、同元島逸甫、龍江村藤本計雄、同久堅山下忠治、同平岩次郎、上久堅村後藤嘉一、飯田市服部貞一、神稻村今村啓次、伊賀良村後藤勝利の諸氏が熱心計畫に努めて居る。農場が少し遠くて半里ある。面積九十六丁二反歩既成水田四年目最長四千米、最長巾千五百米、香水河を引水して居る。下瀬邊の阿知山位の流れである。砂質の故に水は譯山に要する此農場には五百丁歩計りの山が付いて居る。山は云へ其の中には畑も有るが今年一年位小作料を取る氣はない様だ。ごこまでも滿洲式だ。雜魚の御馳走になつて一泊した。

生活の状態は各組合共同一である故に以下省略する。

視察地の都合で吉林へ引返し京圖線を江密峰へ廿一日に行き。吉林より五里半、一番に村に縁故のある處で組合長井口美壽氏の外に伊原清、中島

芳治、中田定一郎、井口由治河原通三、鹽澤勘一、龍江村松島龍二、伊賀良村吉川十市田村坂巻加助諸氏が居る。殆んど村出身者のみ歸村した様な氣分で居られた。宿舎の直ぐ右斜前に驛もあり、〇〇道路の縣道程の吉林へ通つてゐる。宿舎と驛の間には鐵道の運動場より廣い位で、牛や豚の勝手な放牧地になつてゐる。諸君は之に月見草を蒔きたい云ふので九月末に送つてをいた。芽は出さずしても越年出來るか知らん。

この調査に依れば七月の最高八十四度、夜の最低五十度野外で勞くに丁度好い位と思ふ。朝四時に日が出て夕方八時に赤い夕日が沈む。滿洲は夏働くと随分仕事が出来ると云ふ。従つて作物がよく成育する。既成水田を買入たので少く、肥料を要するがほんの少く、肥土を移入して入れて、此の滿洲國の開發の指導をして貰ふ事になつてゐる。今回松島自由移民團で此の土地が入手であるさうだから賣却して貰ひたい價格は幾何と話す。之でもう話は出來たので何日に代金を何處で渡すから「地主は仕方がない」もう之で好いのである。水路の開鑿にしても自由に測量してさんく工事を進ませ、出來上つてから小作料の交渉をするのださうである。廿二三日二夜水曲柳に宿つて廿四日は歸途につく。

終りではあるが移民團員諸君が吉林にて 市田村 中村五郎氏 長野原 小林純三氏 駄科 關島武照氏 新京にて 神稻村 菅沼直人氏 諸先輩には公私非常なる御厄介になつて居る事を御傳へする共に紙上で御禮を申上度い。

以上本旅行の主なる目的は了つたのである。讀み返してみれば何れも物足らぬ處ばかりである。貴い紙上を私の拙い筆で塞いだ事は何しも申譯のない事である。謹んで擧筆する

お寒い時に体の暖まる そば 又 伊勢屋 改名通知 舊名 田中 紀 小生事聊か感ずる儀有之候爲め義久改名仕り候間今日以後は左記の姓名を以て御交誼の程重にも御依頼申上候 昭和十二年十一月一日 時又町 田中屋物店主 新名 田中 義久

期節向御料理は 富士松へ 電話 十五番

會計報告書

大日本國防婦人會電丘村分會

一、眞綿チヨツキ製費

◆収入の部
六二圓一四錢 會員寄附金
六〇圓 屋敷賣上代
一圓七九錢 屑物集めの際現
金収入 眞綿三貫五五匁
合計 一二四圓〇三錢

◆支出の部

三六圓一五錢 眞綿一貫二百
八八匁代 一圓に三五匁の
割
二圓 講師謝禮
九圓九四錢 ナ、目切、ミカ
ヘシ布、ボタン代八圓八錢
糸代一圓八六錢
二圓八〇錢
ゼラン百枚一圓三五錢
寒天三〇本 一圓四五錢
二圓一三錢
ボール紙代 二七圓五一錢
小包郵便料 二二圓四六錢
小包紙代 五圓五錢
二圓九六錢 雜費
合計 八三圓四九錢

◆収入の部

一三〇圓三一錢 入場券賣上
合計 一三〇圓三一錢

◆支出の部

四五圓 寫真代晝夜
一〇圓 劇場借賃
七圓四四錢 招待者菓子代
四圓九五錢 電氣料三圓六七
錢 税金一圓二八錢
三圓七五錢 フイルム掛持運
賃
一圓五〇錢 技師食事
三圓二八錢 劇場雜費 謝禮
足袋一足
三圓三〇錢 入場券印刷費
合計 七九圓二二錢
差引殘金 五一圓〇九錢

中原代議士

講演會開催

日時 十一月十四日午後七時
場所 小學校記念館
講師 代議士中原謹司氏
演題 北支戰況視察並皇運
慰問國民精神總動員
に關して

『竜丘組摺組合』生る

此處にも銃後の反映

去月廿五日、村内各組摺動力組合主催者を農會の統成下に於いて集會させ、今まで各々各所に於て競争的になり、何れも協定事項なかりし故こに統一し、農會長岡村哲を以て下伊那動力組合竜丘支部長とし、村内の統成及事務一切を委ねる事決定し、左記の如く一俵に對する摺摺賃の協定をなす。

全自動式	十四錢
半自動式	十三錢
岩田式	十二錢

昨年度よりガソリン等の値上により各一俵に付き一錢植上す。

尙尙此處にも銃後々接の反映として出征兵及現役兵の留守宅は一割引さす様、申合せて解散着々其の準備活動に入る。

全村体育デー

十一月四日

上川路區優勝

十一月三日明治節式後舉行予定なりし全國體育デーに參加し、本村各區對交競技運動會も雨天の爲翌四日に延期折柄の好天氣に恵まれ文字通

窪田嘉一 兩君名譽の塚平厚留

戰死謹んで哀悼の意を表す
兩君上川路區出身にして遠山部隊に屬し北支戰線に活躍してゐた勇士である

勿論飼育技術の良否は相當の

がめ、事實であるが、やつぱり養蚕關係も相當な主要原因をなしてゐる事は春蠶以來三期を通じて其の筋の調査した處でも非常な役割を演じてゐる事は、新事實となつたが多年の實地基調の経験から見て、用途別桑園の確立が最も必要で愈々桑園改植期を迎え明年度作柄の萬全を期すに當つて、次の改植並に用途別桑園設置方法を述ぶ。

◆桑園改植の意義
桑園整理改植助成金交付は現下の狀勢から推察して到底満足な文附を得ず、其の改植計畫に當つて雀の涙程に見て差支えなく今當時助成金目當に改植を進めるが如き時ではない。

◆桑品種の改良
桑品種の改良は勿論用途別桑園を目標に改植が必要あり従つて

一、稚蠶期にして福島大葉、島の内を主体として改植する事

二、壯蠶期にしては市ノ瀬、改良鼠返しを主体に改植する事 等以上の外植付けの距離は稚蠶用桑園は畝巾四尺五寸に二尺、壯蠶用としては五尺に三尺を標準とし、特に注意すべきは中刈仕立の勵行で之れは收穫量を増すばかりでなく、根刈りに比較して葉質が非常によく中刈りの場合は畝巾六尺、四尺乃至は五尺は植付け、改植に當つて天地がへしを努めて勵行し、堆肥反當三百貫位を標準に尙其の根付けは平坦地は秋植がよく、山間部は此の際準備を完了して春先植付けを行ふが最もよい。

雙 双 劍

時 即ち霜月中旬
白衣の山を仰ぎ、虫の哀調に哀別を知る

◆ 收穫！ 研録も冴へて豊作豫想を裏切り 一割減收を今ぞ知る

◆ 蒔付！ 大地を擁護して努力一鞭 産業日本の護りをよりよき黎明へ……

◆ 銃後々接會の活動
熱心力の和協理想以上の成績戦線の勇士から禮状山積

◆ 兎毛皮 徒らに賣つては結果に於いて損を招きます 必ず農會へ！ 農會へ！

洲松島農業移民一行歸省

家族の引率、惠談報告に希望者よ 研究の要は今！

◆ 糸價低調 米高……
農村一喜一憂

◆ 考へるより先ず緊張が必要
戦線便り一片でも
家の實 生きた村の 國の歴史 大切に保存して下さい

◆ 全村擧げての体育デー
絶好の日好み 接戦和樂 銃後の國民も健全なれ

◆ 國民よ！ 村民よ！
等しく流言にまきわす 捕われず 日本精神と國體を知れ

◆ 一葉散りて哀愁を感じ 紅葉を焚きて酒を温む 日はすべからく往古の夢

銃後の護りは健康から！

健康は先ず 肉食より
牛馬豚肉大勉強……

時 又
細井亭
電話二四番

麻雀ご玉突 は

接客明朗な！ 皆様の娛樂場
時 又
藥天地の 日の出遊戯場へ
氣車 電車總ての乗物にヨハナイ藥
シーシツクレメデー
時 又
特約店 沖田商店
鹽水で直ぐ出来る 安くて滋養豊富 醬油の素特製 ソヤメント

染色 色 色

期節向 ドライクリーニング 取扱ひします
佐々木屋胖物部

◆ アイデアアルインキ 一オンス 二十五錢
◆ 優秀なる國産品 高級萬年筆用 六オンス 五十五錢
◆ インキはツメカエして御使用なさるが 一番御徳です 二オンス 十五錢

ハンコーは 新生堂文具店へ

皆さんの店

安い洋品店が出来ました 御利用下さい
坪之内洋品店出張所

年賀狀 躍進國運の新春を祝す軍國調賀狀荷揃 一日もお早く御用意の程を 電話四八番 新設
今般左記電話を新設致しました何卒御利用御引立の程御願申上ます

印刷、紙、カレンター、雨傘類 龍共社印刷所

足メ 袋スヤリ 服生學 強勉もついで 店物胖屋中田 久義中田主店

龍共社印刷所 印刷、紙、カレンター、雨傘類

兎毛皮の軍部供出に就て

兎 村 農 會

今や事變は酷なりて一部に犠牲者を出すも皇軍の士氣は益々昂天、龍の如くにして勇戦奮闘よく敵を壓迫し着々戦果を収めつゝある事は謂ふまでもない。然し一方海外の諸状勢は頗る緊迫を示し今後の國際政局の動きこそ、我等の特に注視せねばならぬ所である。

斯の如き難局下の我農村は日夜飢餓に耐へ、寒氣を凌ぎ陸に、海に、空に、縦横無盡の活躍を續けつゝある忠勇なる皇軍將士に對して、限りなき感謝を捧げるに共に協心せん力農業報國の赤誠を致さねばならぬのである。而して此の報國の途は多々あるに雖も先ず差當り食糧としての、乾燥野菜原料である。馬鈴薯並ホレン草護身防寒用の兎毛皮馬糞の大麥等が吾々村に適したる供出物なりして系統農會は全力を注ぎて盡忠報國の精神に努めつゝある。

就中兎毛皮に就いては現在我國に飼育せられつゝある數量に就いては、軍部の需用に満たざるの有様にして陸海軍では帝國農會を全部を契約したのである。

兎毛皮は國防上輸出禁止となる。

従來は我國生産數百萬枚の内約半數は米國に輸出せられ、残り半數が軍部で買上げてゐたのである。處が前記の如く軍部の需用増大したので輸出禁止となり、商人の買集めた分も皆、帝國農會の手を経て軍部に収まる事になつたのである。即ち商人のものも農會の統制下に於けるものも同一價格である事は明瞭してゐる。

十一月分の屠殺剥皮乾皮方各農會組合を通じて通知を出して置いたが、十一月九日より十一日まで三日間に實施する方針である。但し雨天順延の事。之には供出届出ない者でも希望者は最寄の場所へ持参せられたい。右の意味に於て翌年三月まで毎月實施するから、一方には仔兎を増殖する事軍部供出に統制化して行きたいと思ふ。

尙不明の點は農家組合長に問合せられたし。

包装の準備は出来ましたか?

検査員竜丘村駐在所

新米出廻期も目前に迫りました。包装の準備は出来ましたか。本年度は非常に新包装が高いから(一ヶ廿五錢値)必ず、雨天の日を夜夜を利用して準備を完了して置いて下さい。扱扱は終つた。而し包装が無い「それ買ひに行つて来い」結局は依り高い包装を買ふ事になるのであります。それらに空袋の使用が許されて居ればさほ必要にせまれません。一空袋は絶対に許されせんからさうして準備して置く様、お願ひ致します。

検査を受ける方法に就て

検査員竜丘村駐在所

繁雑を防ぐ爲に御手元へ配付致しました様に、検査日割を作りましたから熟慮下さい。検査の申請は各實行組合長宅へ、そして自分の組合の検査日を見、午前中であつたら必ず其の日の午前七時半頃には組合長宅へ全員集合(申請した全員)自己の組合を各自應援をし合ひ、豫定の通り運

情の方に限るの外、總て自分の庭で検査を受けて地主に納める事になりましたから準備されたし。等級獎勵米は多少



歩む時の心得

目上の人之道を歩む時、車道に接近した側を自分が歩いて目上の人には車道に離れた所を歩かせる様にするのが禮で、婦人と共に歩む時男子が車道に近い方を歩むべきであります。

座席の注意

座席について注意すべき事は多人數集會の場合には、後から来る人に便宜の様に席をさる事がよく、なんでもかんでも後や隅の方へ坐るのが禮考へて、まだ席が譯山あいておつて後から来る人がわざと前へ来た人の所を通り過ぎなければ、着席出来ないう様な所に席を取るのには誠心を得ない仕方は實に見苦しい極みであります。

愛は非禮を行はず

「愛は非禮を行はず」申しまして要するに心の内に清らかな、そして温い愛の泉が湧いて居れば、自からその行ふ所に無理がなく禮に適つて自ら氣品を點め、人柄を床しくするものであります。

愛は非禮を行はず

婦人の前をみだりがましい口をきく事は非常に卑しい紳士として最も慎むべき事さされて居ります。婦人が真赤なる様、事を平氣で言つたり又婦人も平氣で聞いて居る様

増加する見込みなり。決定次第御通知致します。各組合で適當に検査の円滑に運行する様計畫を立てられたし。

ばつたりして、人の迷惑を咎らぬ顔にしてゐる。

「ごうすれば御飯がおいしく炊けるか」

米一升に對し二二三割増しの水を加へ、お釜三蓋の間に天竺木綿の厚地のものを水に浸してから、二つに折つて掛け、蓋の上には練瓦を二つばかり重しにする。この場合の火の焚き方は最初から火勢を強くし、吹いたところで燃えさしをすつかり引き去り、五分程で釜のブツブツのやんだ時、新聞紙一枚だけ焚くおねばがこぼれぬ爲めおいしく、亦普通に炊いたご飯より分量が多く、燃料時間共に經濟であります。

戦線だより

久保田 頼雄

北支の秋は砲聲と飛行機の爆音の中に訪れました。土塀の柳の木の下で營養不足の様な顔をした支那人が折々見られます。けれど婦女子の見えないうのはあきれました。外氣は内地と略々同じ位です。けさ夜はめつさり寒いのは閉口してゐます。外套を着て毛布にくるまつても夜明けなご疲れた身體も知らず知らず起きて了ひます。

秋收穫時なのに百姓の姿少く背丈に余るゴマ畑も、日中ふわりこぼちつた綿畑も、青々とした地豆畑も皇軍の人馬に踏みじられて飼ふ人もなき魯馬が夜な淋しい聲を立て、啼くの音です。

八月十三日〇〇を出發した我〇〇部隊は満一ヶ月を費して九月十三日白河の上流永定河畔に〇〇〇〇を渡しました。翌十四日砲兵の一齊射撃を共

銃後の護りは健康から

冬物のお仕度
慰問品の御相談には
特に勉強いたします

吉川屋洋品店

染色の期節に入りました
御來店は特に割引に應じます

鼎村下山驛前
龍映染元 今村周八染色工場
電話(飯田)六三九番

百十師、軍管學校の所在地だけあつて防備の完全なる事、今までに見ない氣がします。各地から集結した兵は保定城内外に張つてゐます。翌〇〇日より一般兵の城内入を禁じました。砲聲の音もせず隅々飛行機の通過するのみ。我部隊は〇〇〇に宿營してゐます。營庭は〇〇〇〇〇の馬が幾千頭か並んでゐます。秋蠶も上つて朝草の上を秋日を浴びて午食の後にまざるむ時です。

村は一年の總ての收入を知り得て明年の生計を考へる時なのです。けれど世は非常時です。戦中でも心は同じです。東洋平和の爲め居留民保護の爲、最後まで戦ひたいと思ひます。

柿の色づく時期です。戦の跡には故郷を想像してせめても慰安にしてゐます。着のみ着のみ、の生活になれて北支の地に於ける御自愛をお祈りします。

丘の皆様へ